

● ホットラインのご案内

生命の危機に瀕した三次救急へは
救命救急センターホットライン
 03-6807-1741 (24 時間対応)

急性期の心臓疾患が疑われたら
心臓ホットライン
 03-6807-1992 (8:30～17:00)
 時間外・休日 03-3857-0111 (代表)

脳卒中が疑われたら
脳卒中ホットライン
 03-6807-1650 (24 時間対応)

母体搬送には
母体搬送ホットライン
 03-6807-1982 (24 時間対応)

● 各診療科連絡先一覧

➡ 03-3857-0112 > 音声ガイダンス > 各科の番号を入力

内科	31121 緊急用	皮膚科	21709 外 来
循環器内科	31129(代) 31143 / 31151 / 31153	泌尿器科	22706 外 来
消化器内視鏡科	23608 外 来	骨盤底機能 再建診療部	22706 外 来 31281 (前田)
総合診療科	31121 緊急用	産婦人科	21220 外 来
心療・精神科	22714 外 来	新生児科	26212 (NICU)
小児科	31173 緊急用	眼科	22326 外 来
外科	31208 緊急用 21324 外 来	耳鼻咽喉科	22308 外 来
乳腺外科	21324 外 来	救急医療科	03-6807-1741 24H
整形外科	31181 緊急用	麻酔科	31391 緊急用 31378 (市川)
形成外科	21337 外 来	歯科口腔外科	21120 外 来
脳神経外科	03-6807-1650 24H	放射線科	31330 (CT) 31331 (MR) 31333 (RI)
心臓血管外科	31764 (梶本) 31124 (古川) 31255 (池原)	リハビリテーション科	31551 外 来
呼吸器外科	21222 外 来	病理診断科	31566

緊急用 平日 9:00～17:00 **外 来** 外来診察時間内 **24H** ホットライン

上記に繋がらない場合は、地域連携室までお問い合わせください。

地域連携室に直通電話を設置いたしましたので以下の電話番号をご活用ください。

● 地域連携室 03-5647-8207 (直通)

受付時間 月～金曜日 9:00～17:00 / 土曜日 9:00～12:30

休診日 日祝日・第3土曜日・創立記念日(12/5) / 年末年始(12/30～1/4)



Topics

広報誌トピックス



東京女子医科大学 附属足立医療センター

Tokyo Women's Medical University
Adachi Medical Center

Contents

- ・広報誌「Topics」の創刊にあたって
- ・就任のご挨拶
- ・第43回医療連携フォーラム
- ・小学生親子探検ツアー

2025

11

Vol.01

広報誌「Topics」の創刊にあたって

平素より当院の医療連携にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、当院では地域の医療機関の皆さまとの情報共有と連携強化を目的として、年4回「広報誌 Topics」を発行する運びとなりました。本誌を通じて最新の医療情報をはじめ、当院の研究・教育活動、診療体制や新たな取り組み、地域医療に関する情報などをお届けし、より円滑な診療連携の一助となることをめざしてまいります。

当院は地域医療支援病院として多くの患者さんのご紹介をいただいております。その一方で、患者さんが急性期治療を終了した時点で、ご紹介いただいた病院に一旦お戻りする逆紹介率は毎年80%以上になります。今後もこのよ

うな循環型の医療を地域の先生方と推進させていただくとともに、地域の中核病院として迅速かつ的確に対応できる体制整備にも努めてまいります。

本誌が、皆さまとの顔の見える関係づくりの一助となり、患者さんに最適かつシームレスな医療をご提供できることを願っております。どうぞ本誌をご活用いただき、忌憚のないご意見やご要望もお寄せいただければ幸甚に存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



病院長

しおざわ しゅんいち
塩沢 俊一

理念

センターは、「至誠と愛」の心をもって人に接し、最善の医療を実践し、社会に貢献するとともに全人的医療人を育成することを理念とする。

基本方針

1. 患者視点に立った、きめ細やかな温かい心の通った医療を実践します。
2. 先進医療の推進や高度医療の提供に尽力し、チーム医療と質の高い安全な医療を提供します。
3. 医療連携を通して、地域住民の健康推進に貢献します。
4. 創造的知性と豊かな人間性を有する医療人を育成します。



財団法人日本医療評価機構
認定病院



心臓血管外科 教授
かじ もと かん
梶 本 完

先進技術で挑む、低侵襲・安全な心臓治療

2025 年 9 月より、東京女子医科大学附属足立医療センター 心臓血管外科に着任いたしました、梶本 完と申します。

これまで約 24 年間にわたり順天堂大学に在籍し、天野 篤 先生（前主任教授、上皇陛下の心臓手術執刀医）の一番弟子として研鑽を積み、4,000 例を超える心臓血管外科手術に携わってまいりました。

新たな赴任先であるこの足立医療センターにおいては、“安全第一”と“Patient First”の理念を最優先に据え、東京女子医科大学の伝統を継承しながら、ロボット支援手術や血管内治療を含む低侵襲かつ高度な外科治療の提供体制を整備してまいります。

また、地域で唯一の大学附属病院としての使命を果たすべく地域の皆さまに信頼される医療の提供と、健康寿命の延伸に貢献できるチーム医療の確立を目指してまいります。

さらに、診療にとどまらず、次世代の外科医育成に向けた教育や研究にも積極的に取り組む所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



内科 教授
もり もと さとし
森 本 聡

看護師とチームを組み循環型医療の実践

このたび、2025 年 4 月 1 日付にて内科教授を拝命いたしました森本聡と申します。永きにわたり糖尿病・内分泌代謝・腎臓・高血圧といった疾患領域において、臨床、研究、教育の三本柱を礎に研鑽を重ねてまいりました。これらはいずれも現代医療において喫緊の課題であり、患者の生活と社会の健全な発展に直結する領域です。今後は当院が担う地域医療の中核としての責務を胸に刻み、より高い水準の医療の実践に力を尽くしてまいります。

また、優れた医療人の育成は大学病院に課せられた最も重要な使命の一つです。次代を担う人材が志高く、世界水準で活躍できるよう、教育・指導においても尽力いたします。さらに、病院運営にも積極的に参画し、社会から信頼される持続可能な医療体制の構築に寄与して参りたいと存じます。

内科教授を拝命するにあたり、その重責を痛感するとともに、新たな決意をもって職務に臨む覚悟です。今後とも、皆様方の一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



CHAPTER
01

第 43 回城東地区医療連携フォーラム

日時 2025 年 7 月 26 日 15:00 開演

会場 東京芸術センター [天空劇場]

講演会：15:00～16:50

第 43 回城東地区医療連携フォーラムを開催し、院内 70 名、地域の医療関係者 52 名の参加を賜りました。

講演内容は、いずれも大変興味深い内容で、ホールに集まった方々も真剣な表情で聞き入っておられました。

懇親会では、にこやかに名刺交換する場面や談笑風景があちらこちらで見られ、隅田川の花火大会も楽しむことができました。

次回フォーラムは、来年 2 月頃開催予定です。

本会は、城東地区（足立区、荒川区、北区、葛飾区）の 4 医師会のご協力により開催されておりますが、地域の医療関係者の方々との「顔の見える連携」を進めるべく、他地域の皆様のご参加も心よりお待ちしております。



第43回城東地区医療連携フォーラム	
プログラム	
総合司会：	東京女子医科大学附属足立医療センター 副院長 木所 篤子看護部長
開会挨拶：	東京女子医科大学附属足立医療センター 病院長 城東地区医療連携フォーラム 代表世話人 塩沢 俊一先生
セッション1 Sponsored Lecture テーマ『認知症』	
座長：	あベクリニック 院長 阿部 哲夫先生
演題「抗体治療時代の認知症診療」	東京都健康長寿医療センター 認知症疾患医療センター長・精神科部長 古田 光 先生
セッション2 Medical Educational Session テーマ『高齢者で遭遇する疾患について』	
座長：	東京女子医科大学附属足立医療センター 副院長 高木 博先生
演題 1「高齢者の精神変調とその周辺」	大内病院 院長 谷 将之先生
演題 2「心房細動治療の最前線ー進化する薬物・アブレーション療法」	東京女子医科大学附属足立医療センター 循環器内科 教授 嵐 弘之先生
総合ディスカッション	
開会挨拶：荒川区医師会会長 西日暮里眼科院長 太田誠一郎先生	

CHAPTER
02

小学生親子探検ツアー

去る 8 月 22 日（金）、当院にて足立区主催の「小学生親子探検ツアー」を開催しました。

足立区より「3 次救急の大学病院ならではの機能と、そこで働く様々な職種の活動を肌で感じ取ってもらい、将来の医療職を目指すきっかけになるようなツアーにしたい」との要望を受け、探検ツアーを企画しました。

3次救急に特化した、救命救急センター、手術室、放射線科、薬剤部、屋上ヘリポートをコースとし、スクラブを着た子供たちが内視鏡カメラや手術器具に触れたり、救急車に乗って記念撮影をしたりと内容の濃い時間を過ごしました。

当院初めての試みでしたが、参加者 10 組の募集に対し 10 倍のお申し込みがあり大学病院に対する関心の高さが伺えました。参加した子供たちからは「お医者さんになりたい」という声も聞かれ、将来を考える上で医療という選択肢をひとつ心に留めてもらえたことと思います。

